

ドキュメンタリー映画「明日香に生きる」から考える “いのちのバトン”

奈良県明日香村国民健康保険診療所

所長 武田以知郎先生



ドキュメンタリー映画「明日香に生きる」が今年の2月から地元での上映が始まり、これからは全国に展開していく予定です。この映画は、いのちのシリーズを描く溝淵雅幸監督によって、私の勤務する奈良県明日香村での日常診療や四季の風景をリアルにかつ美しく描いています。

明日香村はご存知の方も多いと思いますが、のどかな農村風景の奥に、かつて日本の都として栄え、大化の改新など歴史の舞台ともなった日本人の心の故郷ともいえる地域で、各大字には様々な言い伝えや風習も残っています。その地に導かれ、十数年前に診療所に赴任しましたが、当時の子供たちは青年に、元気だった高齢者が旅立つ姿に時の流れを感じ、いくつもの“いのちのバトン”が受け継がれていくのを見てきました。明日香村の歴史から考えると、私の居る十数年は僅かかもしれませんが、その間も医学は進歩し、私の子供時代に描いたお医者さんとはずいぶん違う医療を担うことになってしまいました。しかし、いのちのバトンだけは変わらずに受け継がれています。

その昔、医師と看護師と産婆さんだけだった地域医療は、今や多くの制度と多くの職種に支えられ、多様な選択肢が用意されています。そして医療自体も臓器別、専門細分化から改めて総合診療やかかりつけ医など、多様性に寄り添える医療の必要性が謳われるようになりました。明日香村には高度な医療はありませんが、村民のいのちに寄り添い、総合性を持ちながら身近で優しい医療を

提供できる、昔ながらの“お医者さん”を目指しています。

今回溝渕監督と意気投合し、明日香を撮っていただけることになりましたが、正直在宅医療や総合医療の分野では特に秀でたものではなく、今やごく普通の地域医療の姿と思っています。ドキュメンタリー映画のため、余計なうんちくは一切語れなかったのですが、今回の講演では映画の概略とともに、映画では伝えられなかったうんちくを思い存分語らせていただきたいと思います。これを知ってから実際に映画を鑑賞していただけると、より興味深く面白くなると思います。

主な略歴

- ・ 1985 年自治医科大学卒業、県立奈良病院にて臨床研修
- ・ 天川村国保南日裏診療所長、大塔村立診療所長歴任
- ・ 県立五條病院へき地医療支援部長、小児科部長
- ・ 2004 年市立奈良病院副管理者、総合診療科部長
- ・ (公社) 地域医療振興協会近畿地域医療支援センター長
- ・ 2010 年明日香村国民健康保険診療所管理者
- ・ 奈良県立医科大学客員講師、元自治医大臨床教授
- ・ 第 2 回奈良のお薬師さん大賞受賞
- ・ 令和 3 年度日本小児科学会小児保健賞受賞

<https://www.inochi-hospice.com/asuka/>

